

水産の窓

アワビ種苗の放流 ～浜の取組み紹介～

茨城県においてアワビ種苗の放流は、船上から種苗をばらまく「ばらまき放流」と種苗を入れた放流器を海底に沈める「放流器放流」および漁業者が海に潜って直接放流する「潜水放流」の3つの方法で行われています。水産試験場では浜の関係者に、ばらまき放流中にアワビ種苗が魚類につつかれる様子や、潮に流されて海底を転がる様子を動画で紹介し、アワビ種苗を丁寧に放流することのできる「放流器放流」や「潜水放流」をあらためて推奨しました。今回は、今年度、各浜で見られた新たな取組みの一部をご紹介します。

取組み① 改良型放流器の導入

放流器による種苗放流は、川尻地区、河原子地区で行われてきました。しかし、従来の放流器では、種苗が放流器の中に留まり、外に出るまでに時間がかかってしまうという課題がありました。そこで川尻地区では、今年、水産試験場が改良した、放流器の上部から光が入る構造の改良型放流器を導入し、従来型との比較実験を行いました（写真1、2）。実験の結果、放流から2日後、1週間後共に改良型の方が種苗の出が良く、種苗滞留時間の短縮に期待が持てる結果が得られました。

また、河原子地区でも川尻地区の実験結果を踏まえて、放流器に同様の改良を加えての放流器放流が行われました。



写真1 上：従来型 下：改良型



写真2 放流器放流の様子

取組み② 潜水放流の実施

潜水放流による種苗放流は、これまでの会瀬地区、平磯地区に加えて、今年（R3.8.23時点）、久慈・水木地区、大洗地区においても行われました（写真3）。新たに潜水放流に取り組んだ地区では、これまで、ばらまき放流が行われていましたが、漁業者からは、「潜水放流は手間はかかるが、種苗を安全な場所に放流できるし、海底で種苗が移動していく様子が確認できて良い。効果がありそうな気がする。」という、潜水放流をやった良かったというコメントがありました。



写真3 潜水放流の様子

このほかにも、アワビ資源の有効利用のために各浜で様々な取組みが行われています。水産試験場では各浜における取組みを支援していきます。（定着性資源部 古川 洋之介）

【次号予告】R3.9.10 発行の「水産の窓」は『海洋観測結果』を予定しています